

社会・人間・情報プラットフォームプロジェクト

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学社会科学研究所 公開日: 2013-05-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 夏井, 高人 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/15574

5. 大 型 研 究

社会・人間・情報プラットフォームプロジェクト

夏 井 高 人

(概要)

SHIP プロジェクトでは、XML の技術を応用した社会科学系のデータベースのプラットフォーム技術の開発を進めている。

2002年度においても、XML の技術や仕様に関する最新の動向についての調査研究を継続して進めながら、基本技術の開発及び特許化についての検討を重ねた。

また、実証実験用のシステムで使用する判決データ及び文献等をさらに蓄積したほか、将来の応用システムでの利用を前提に、関連する外国法令の翻訳及びそのデータの蓄積等も進めた。

このほか、技術の最新動向を調査するとともに関連する諸問題についての対応を模索するため、スウェーデン（司法省等）、ニュージーランド（財務省等）、オーストラリア（プライバシーコミッショナー等）を訪問し、施設・システムの見学や意見交換等を行った。

(共同シンポジウムの開催)

SHIP プロジェクトの研究成果は広く社会還元されることが求められていることから、2002年度においても国際シンポジウムを開催した。

シンポジウムは、2002年4月27日、明治大学駿河台校舎リバティタワーで開催された。午前には、ゲスト講演者であるティモシー・アーノルド＝ムーア氏の講演と SHIP プロジェクト研究員である小松弘からの報告がなされた後、法律領域における XML 及び SGML 技術の応用に関する討論がなされた。午後には、SHIP プロジェクト研究員である阪井和男からの研究報告がなされたほか、ゲスト講演者であるコンスタン・ジョンソン氏（米国連邦議会図書館）、ジェーン・クレメ

ス氏（オーストラリア連邦タスマニア州政府）の講演及び招待パネリストである太田雅幸氏（衆議院法制局）と富士良宏氏（特許庁）の報告の後、SHIP プロジェクト研究員である指宿信の司会により政府系データベースの社会的役割をめぐる討論がなされた。

（研究成果の公開）

2001年度に開催した共同シンポジウムの結果について、和文と英文の成果報告書を作成・印刷し、内外の図書館や研究施設等に送付した。

今後も同様に研究成果の公表を継続する予定である。

（問題点）

2002年度には実験システムを公開する予定であった。しかし、技術開発の主要メンバーである和田悟が長期間海外出張しなければならないこととなったため、SHIP プロジェクトにおけるシステム開発に重大な支障が発生し、実験システムの公開を実現することができなかった。他のメンバーについても同様の問題がある。

この点は、SHIP プロジェクトを含む大規模研究プロジェクトを遂行する上では非常に大きな問題となる。今後、大規模プロジェクトを確実に実施するためには、当該プロジェクト期間は、研究に参加する研究者が当該プロジェクトの研究のみに専念できる体制を構築する必要があると同時に、専門技術者や補助者等を継続して雇用できる体制を確立する必要があると思われる。